



令和5年度 上島町総合防災訓練の実施について

令和5年度上島町総合防災訓練を、次のとおり実施いたします。



日 時 5月28日(日) 午前8時～(少雨決行)

場 所 上島町全域

※予備日 6月4日(日) 午前8時～

※荒天等により訓練を延期する場合は、当日の午前6時30分に決定し、町内放送で周知します。

※午前8時に、避難訓練のための一斉放送を行います。避難後は、各地区における訓練に参加してください。

地域の自主性高揚を図るため、各地区の自治会や自主防災組織に自主訓練を依頼しております。訓練内容の話し合いに準備の段階から積極的に参加し、皆さんで、災害に強い地域づくりを進めて行きましょう。

【問い合わせ】消防防災課 ☎77-3166

高台に避難
してください

「ガスコンロ」が原因の火災にご用心!!

火災リスクチェックリスト

調理中に
その場を離れて
しまったことがある調理中は決してその場を
離れない!
離れるときは火を消して。コンロの近くに
燃えやすい物が
置いてあるコンロの周りに
燃えやすいものを
置かないこと。火をつけたまま、
コンロ奥のものを
とろうとしたコンロの上や奥のものをとるときは
火を消して。防災エプロンなど
使用すればなお安全。グリル庫内に
汚れがたまっている

グリルは定期的にお掃除を。

グリル掃除の方法は
動画でチェック!! ➡

ガスコンロを原因とした火災は減少傾向にありますが、住宅火災としては依然としてもっとも多く令和3年中は全国で2,359件発生しています。

調理中はその場を離れない!

コンロ火災の原因の半数以上は、消し忘れとなっています。コンロの使用中は絶対にその場を離れないこと。離れる時は必ず火を消してください。

Siセンサーコンロ 温度センサーの働き

天ぷら油は約370℃を超えると自然発火します。Siセンサーコンロの場合は、温度センサーが鍋底の温度を感知して約250℃になると、自動で火力を調節、温度をキープして自然発火を防ぐので古いコンロは買い替えをおすすめします。

令和5年3月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R5累計
火災	1	0	0	0	0	1	1
救急	16	9	6	1	0	32	108

(令和5年3月31日現在)

【上島町消防本部・消防署】☎77-4118
【消防防災課】☎77-3166

しまなみ
農業だより

カンキツの開花と管理

5月は、カンキツの開花期を迎えます。開花は、今年の果実の結実量や外観などが決定する重要な時期になります。今回は、カンキツの開花期の見立てによる生育や栽培管理について解説します。

1 カンキツの着花特性

常緑樹であるカンキツの花は、前年の春から夏に発生した果実をつけなかった緑枝に花が咲きます。例外としてレモンは2〜3年前の枝に花を付けることがあります。花の量は、前年の果実の成った量に反比例して、豊作年の翌年は花の量が少なくなります。毎年、着花

2 花の種類と結実特性

させるためには、剪定(春季)により春芽の発芽を促し、有効な着花数に調整し、夏季の摘果により果実数を制限して次年度に着花する条件を整えます。

カンキツ類の花の付き方は、大別して、葉の付け根から花が付く直花と新芽の先に花が咲く有葉花があります(写真1)。品種により花の付き方が異なり、1ヶ所にひとつ花が付く単生花と複数の花が付く総状花があります。総状花は、八朔やブンタン類、レモン等によく見られます。直花は、結実割合がやや低く、開花が早く初期肥大がよいですが、後半の肥大が緩やかで大玉になりにくい性質があり、温州みかんなどに向く花と言えます。一方、有葉花は、開花時期がやや遅いですが、結実率が高く、後半の果実の肥大が旺盛で、大玉果実にする中晩柑類(紅まどんな、せとか、いよかんなど)に適した花と言えます。

3 開花期の栽培管理



写真1 直花(左)と有葉花(右)

① 枝葉の管理

着花が多い時は、枝単位に花の多い枝をハサミで摘み取り花数を制限します。中晩柑類の「いよかん」や「はれひめ」などは、着花が極端に多くなると樹が衰弱してくるので花が多い場合は、5月上旬に花肥として、10アル当たり、化成肥料1袋または硫酸を施肥してください。また、着花が少なく発芽の多い樹では、着花している枝が日陰にならないように被さり枝などをハサミで切除し、着花している枝

に日光を当てて結実を促すように整枝してください。まだ成長させる必要のある苗木では、定植3年生ころまでは花を除去して成長を優先し、4年生以降では、樹高の1/2以下に少しずつ着果させて樹が衰弱しないように注意します。



写真2 コアオハナムグリ(左)とヒラタケキシイ

② 開花期の病害虫防除

カンキツ類の開花期には、芳香に誘われて訪花してくる昆虫がたくさん見られます。昆虫の中には、果実となる子房に傷をつけてしまう、コアオハナムグリとケシキシイ類が主要な訪花害虫と呼ばれています(写真2)。

コアオハナムグリは、体長10ミリ内外の緑銅色の甲虫で、開花はじめてから訪花し、果実に傷を付けます(写真3)。ケシキシイ類は、体長4ミリ内外の薄茶色の甲虫で花の内部に潜り込みます。ミツバチやクマバチの訪花も見られますが、子房に傷を付けることは、ほとんどありません。前記以外に、アザミウマ類という体長1ミリ内外の微細な昆虫が子房に傷を付ける種もいます。

これらの訪花害虫の防除は、開花期間が長いので、開花3分咲き頃と8分咲きの2回、農薬の散布が有効です。作業的に1回散布しか行えない場合は開花5分咲きころに防除して下さい。薬剤は、ロデイー乳剤2000倍、エクシレルSE5000倍などが有効です。

写真3
コアオハナムグリによる傷果